



上田高等学校
関西同窓会報

第49号
2019年(令和元年)
7月17日(水曜日)
編集発行
上田高等学校関西同窓会

9月7日(土)に第29回総会・懇親会

上田高校関西同窓会の第29回総会・懇親会は、令和元年9月7日(土)、新大阪の大阪コロナホテルで開催されます。今年の講演会は、上田高校同窓会本部理事長で、シナノケンシ社長の金子元昭氏に「長野県の中小企業の現状と将来展望」と題してお話いただきます。シナノケンシの元の社名は「信濃絹糸紡績」。上田地方で盛んだった養蚕の繭から紡績糸を作る会社でした。それが今ではモーターを始めとし、FA・OA 機器用や医療機器用など多岐にわたる分野の製品を提供する会社に。ご自身の会社を含め、長野県の中小企業を話題にお話いただきます。



《講演会》 長野県の中小企業の現状と将来展望

《講師》 シナノケンシ株式会社取締役社長 金子元昭氏

講師のプロフィール

1951年上田市生まれ。1969年上田高等学校卒業(第68期)、1975年東京大学経済学部経営学科卒業、1977年オハイオ州立大学MBA取得、1980年シナノケンシ株式会社入社、1999年取締役社長就任。(公職)長野県経営者協会副会長(労務管理委員長)、長野県中小企業振興センター理事長、長野県工科短期大学教育研究振興会会長

講師のメッセージ

少子高齢化、グローバル化など日本の中小企業を取り巻く環境は大きく変化しています。第二次世界大戦後、多くの起業家が出ましたが、次世代への事業承継は必ずしもスムーズには進んでいません。全国平均に比べて製造業の比率が高い長野県の中小企業の多くは、新しい時代に対応して生き残って行く対応策が求められています。その中で長野県中小企業振興センターが果たす役割をお話しし、皆さんからヒントをいただければと思います。

..... ◆第29回総会・懇親会案内◆

【とき】2019年9月7日(土)

受付開始 10:00

定期総会 10:30~11:00

講演会 11:10~12:10

懇親会 12:30~15:00

【ところ】大阪コロナホテル 大阪市東淀川区

西淡路 1-3-21 tel.06-6323-3151

総会:2階215号室 懇親会:200D号室

【会費】会員:7,000円

ご家族:5,000円 初参加会員:5,000円 学生会員:3,000円

【アクセス】JR新大阪駅東口(西淡路方面口)より徒歩2分



<会長挨拶>

シナノケンシの経営者としての金子氏のお話にご期待を！

会長 竹内 俊隆 (68期)



皆さんこんにちは。会長を拝命してからはや3年、任期終了の時期が近づいていますが、元号は令和に代わり新しい時代が始まりました。今年度の総会は令和で最初の総会となります。令和の新時代ではありませんが、同窓会としては特に若手・中堅の参加者数増加という積年の課題に取り組んでいます。新たな時代に即して、同窓会活動もより活発になるよう頑張りたいと思いますので、変わらぬご協力・ご支援のほどお願い申し上げます。

活性化策の一環として、故郷長野県や上田に関する話題およびビジネス関係の話を総会などでしていただく方針を掲げてきました。その方針に沿って、令和最初の総会を記念して、同窓会本部の理事長でありシナノケンシの経営者でもある金子元昭氏に講演をお願いしました。私と同期の68期です。

同氏は、地元の有力企業を切り盛りするだけでなく、長野のビジネス関係その他の要職をいくつも兼務しています。いつも本部理事長として出席いただき、母校や同窓会の状況などをお話しいただいていますが、今回は長野県がおかれているビジネス環境や企業経営の話をしていただく予定です。乞うご期待です。皆様誘い合わせの上是非ご参加ください。

母校のお堀がピンチ



2019年4月24日撮影の母校のお堀（写真・文章とも本部同窓会HPより）

上田市指定文化財であるお堀は給水ポンプ老朽化のための故障と諸原因による漏水で水が少なく、汚泥の堆積などが進んでいる。上田高校からも同窓会からも再三、県・市当局に申し入れをしたが、予算や所有権等の諸般の事情で工事は見込みが立っていない。お堀をこれ以上放置することはできないため本部同窓会は120周年記念事業のひとつとして、かつての水を満々とたたえた清浄なお堀へと復活させることにした。

本部・支部の活動に参加しました

2019年6月29日 荻原靖会計長

(第58回関東同窓会総会)

お悔やみ申し上げます

森田尚文氏 (61期) 2018年5月5日

会費納入方法のお願い

2019年4月より、郵便局の振込手数料が大幅値上げになりました。

窓口で納入の場合 130円⇒200円

A T Mにて送金 80円⇒150円

手数料は同窓会が負担していますので、従来そのままですと会費収入がかなり減ります。そこで納入にあたり以下のご協力をいただきますよう皆様をお願い申し上げます。

1. 総会出席者は会場受付で会費をお支払いください。（手数料が0円）
2. ゆうちょ銀行に口座がある方は、ゆうちょ銀行からご送金。（月1回、手数料0円）
3. 窓口より、できればA T Mで。
4. できれば複数年をまとめて。

(副会計長 尾崎忍)

ブラタモリ彦根＋石田三成の佐和山城

76期 尾崎 忍

2019年3月30日（土）の朝、参加者10名が彦根駅に集合した。企画担当・お世話係の私としては、この日に桜の開花と晴天を祈願していたが、桜は近日の寒さでまだつぼみの状態。天気は曇りだが午後からは雨の予報。う～ん残念だが仕方がない。



佐和山山頂で（標高 232m）

さっそく「城下巡回バス」に乗り10分ほどで佐和山麓の「龍澹寺前」に着いた。ここで出迎えてくれたのが、本日、我々を案内してくれるボランティアガイドさん。彼と相談して雨が降る前に登ったほうが良いと判断し、麓のお寺の見学をとばして早速登山を開始した。

しばらく緩やかな登りだったが、すぐに谷が現れた。谷に沿って登りさらに進むと峠にでた。この峠道をくだると中山道の鳥居本宿だという。実は佐和山城の大手門は宿場がある鳥居本の方にあっただけ。琵琶湖側は裏口だった！

峠を右に尾根道を辿ると西の丸跡とよばれる平地が現れ、続いて本丸跡に着いた。ここは広場になっており彦根の町が一望できる。ガイドさんは広場の隅にある石垣の名残に案内してくれた。かつての佐和山城は三層または五層の天守閣だったらしい。城下の鳥居本宿は中山道と北陸道の分岐する宿であり交通の要衝。ここをおさえる城として、高層の天守閣があったことは間違いない。

昼食は近江牛のコースを堪能

山を下ってバス停に戻り、再び巡回バスで彦根城前のキャッスルロードにある「せんなり亭」

に着いた頃に雨が降ってきた。近江牛のコース料理を堪能して外へでると本降りの雨。ここからは傘をさしての彦根散策である。

家康はなぜ彦根がイと思ったのか

関ヶ原合戦の論功行賞で家康は石田三成の佐和山城を忠臣の井伊直政に与え、山城を湖岸に移すよう命じた。井伊家が目をつけたのは湖岸にあった彦根山で、この丘に築城し周りを三重の大きな堀で囲った。内堀・中堀・外堀（現在は無い）である。堀から出た土は武家屋敷の敷地にするという手法で湖岸を開発。

さらに、城の南側を湾流していた善利（せり）川を一直線の水路とし、この水路と外堀の間の土地に足軽屋敷などを作った。こうした開発で彦根の町は中山道・北陸道をおさえ、かつ琵琶湖の水運を利用した港の機能をそなえる湖北の一大都市となった。

足軽屋敷から彦根城へ

まず訪れたのは、善利川の直線化でできた土地にある足軽屋敷。今でも多くの屋敷が残っており見学もできる。足軽とはいえ門構えの立派な屋敷で、タモリが覗いていた「のぞき窓」がある辻番所は無料で開放されている。

続いて彦根城へ。中堀と内堀の雄大さに見ながら城内へはいる。結構な登りである。山頂の天守に着くとすごい行列で1時間待ち。ガイドさんの機転で奥にある同じ構造の三重櫓を見学した。

お城の山をおりて藩主の回遊式庭園である玄宮園を見学したのち、井伊直弼が青年時代を過ごした埋木舎を訪れた。ここを最後に彦根駅に向かい解散しました。

参加者の皆様、本当にお疲れ様でした。良いボランティアガイドさんに恵まれて、何とか一日を過ごせたことは一会の素敵な思い出となってくれると思います。

美しいお堀をとりもどしたい

上田高等学校長 廣田 昌彦



校長就任2年目となりました。今年もよろしくお願ひします。先日、5月25日本校同窓会館で開催された同窓

会定時総会において、来年迎える母校創立120周年記念事業をお決めいただきまことにありがとうございました。

この春以降上田においでになった方はお堀の様子にびっくりされたのではないかと思います。水源が故障しお堀に水が入らない状況が続いていましたが、今年の冬が少雨だったため、底が見える状態になってしまいました。同窓生のみなさんをはじめとして近隣の住民からも心配する声が学校に寄せられていました。

私はこれまで長野県や上田市の教育委員会、文化財生涯学習課、文化財保護担当者に保全の方法はないか、独自にかけあってまいりました。本来ならば県の予算をもってお堀をしゅんせつすべきかと思いますが、例えばトイレの洋式化など、生徒が毎日の学習や生活をする上でどうしても修理と取り換えを優先すべき施設がいくつもあり、順番をまっています。

上田市の土屋市長さんも峯村教育長さんも本校同窓生ですので、とても熱心に相談にのってくださるのですが手続きの上で難しいこと

もよくわかりました。

このような現状において、同窓生の皆様のお力を借りてお堀がもとの美しい姿を取り戻すことができることは、とてもうれしく、感謝の念に堪えません。私はお堀や古城の門、土塀を後世に残したいと心から願っていますが、そのためには継続的に史跡の保護保全を受けることのできる仕組みが必要だと強く感じています。今後もそのような働きかけを各所に対して続けてまいります。

120周年記念事業では、同窓会館と校内管理諸室のエアコンの設置についてもお認めいただきました。教室は県費でのエアコン設置が今年度からすすむことになりましたが、研究室等には計画はありません。猛暑も「危険な暑さ」という表現に置き換えられるほどの暑さの中、先生方の労働環境が著しく向上することは間違いありません。

それにしても、各期に大変な募金をお願いする計画を拝見いたしました。ご苦勞とご負担をおかけしますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

定時総会では、お集まりいただいた代議員のみなさんが、総会終了後そのまま第一回募金委員会を開催されました。その活発なご議論と熱気に触れ、同席しておりました私は、同窓生のみなさんの母校愛を強く感じ、とてもうれしく、上田高校は本当に同窓生のみなさんに守られ育てられているのだと思いました。

<進路状況>

国公立大学に現役生137名合格

進路指導主事 櫻井 敦

日頃は上田高校の教育に深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。進路状況は、全国的に難関大学志向が高まっている中で、例年以上に現役生、既卒生ともに健闘し、本校生の潜在能力の高さを強く感じさせる結果となりました。

国公立大学は現役生137名合格。旧帝大合格者は現浪合わせて16名。北海道大学4名、東

北大学4名、東京大学1名、名古屋大学4名、京都大学1名、大阪大学2名でした。医学部医学科には現浪あわせて国公立大学3名、私立大学2名合格しました。また、SGHの活動を生かした積極的な出願も見られました。私立大学については、定員超過の絞り込みや安全志向の高まりで近年厳しい入試が続いておりますが、慶応義塾大学6名、早稲田大学14名（現浪計）など、現役私立大合格者総数は過去最高の416名となりました。

本校生には、新しい時代や未来を創造するために必要な「真の学力」、「高い志」、「豊かな感性」と「いざ百難に試みむ」の精神を身に付けていってほしいと願っています。

今後も、ご理解、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

2019年入試進路実績（現役＋浪人）

大学名		大学名		大学名		大学名	
国立大学		高崎経済	3	学習院	4	日本	23
旭川医科	1	前橋工科	3	北里	7	日本女子	5
北海道	4	首都大学東京	5	杏林	2	日本体育	2
弘前	2	千葉県立保健医療	1	慶應義塾	6	法政	33
東北	4	神奈川県立保健福祉	1	工学院	8	星薬科	2
秋田	4	横浜市立	1	國學院	6	武蔵野	11
茨城	4	新潟県立	1	国士舘	1	武蔵野美術	3
筑波	7	富山県立	3	駒澤	9	明治	19
宇都宮	1	金沢美術工芸	1	実践女子	1	明治学院	9
群馬	6	公立小松	1	芝浦工業	17	明治薬科	3
埼玉	6	福井県立	1	順天堂	1	明星	1
千葉	12	都留文科	2	上智	1	立教	20
電気通信	1	長野	1	昭和女子	3	早稲田	13
東京	1	長野県看護	1	女子美術	2	神奈川	4
東京医科歯科	1	長野県立	5	成蹊	4	相模女子	2
東京海洋	1	諏訪東京理科	2	成城	5	フェリス女学院	1
東京外国語	4	岐阜薬科	1	専修	6	聖マリアンヌ医科	1
東京学芸	4	静岡県立	2	創価	4	金沢工業	7
東京芸大	1	大阪市立	1	大正	2	北陸	4
横浜国立	3	奈良県立	1	大東文化	8	長野保健医療	2
上越教育	1	福知山公立	1	玉川	5	佐久	4
新潟	2	公立大学計	39	多摩美術	1	松本	1
富山	6	私立大学		中央	25	中部	3
金沢	14	酪農学園	1	津田塾	9	岐阜聖徳学園	2
福井	2	東北医科薬科	1	帝京	8	名古屋外国語	1
山梨	2	国際医療福祉	8	東海	6	南山	3
信州	43	群馬パース	2	東京医科	1	名城	1
静岡	6	高崎健康福祉	5	東京音楽	1	京都造形芸術	2
名古屋	4	女子栄養	2	東京家政	9	同志社	2
三重	1	獨協	5	東京工科	2	立命館	11
京都	1	日本薬科	1	東京女子	13	龍谷	1
大阪	2	文教	20	東京電機	12	関西	4
神戸	1	秀明	1	東京都市	5	関西外国語	1
宮崎	1	千葉工業	8	東京農業	11	近畿	6
琉球	1	青山学院	8	東京薬科	5	関西学院	3
国立大学計	154	亜細亜	1	東京理科	27	奈良	3
公立大学		大妻女子	2	東邦	2	その他	36
群馬県立女子	1	桜美林	4	東洋	30	私立大学計	581

福沢諭吉のルーツは塩田城主の福沢家

48期 関口貞雄

1 はじめに

一昨年5月別所温泉に宿泊した時、宿の人から国の重要文化財の三重の塔で知られる前山寺の藤の花が満開で見頃ですよと花見を勧められた。そこで花見をした後、付近の塩田城址にも足をのびした。塩田城から見ると前山寺は鬼門（北東）の方角に位置している。そのため塩田城の厄除けの寺としても信仰された。塩田城は廃城となっているが、坂城の葛尾城主村上家の一族・家臣であった福沢諭吉の先祖が城主を務めた城で、真田昌幸が上田城を築城した時に不用となって廃城とされた。



前山寺の三重の塔

2 塩田城と福沢家

2-1 塩田城の築城と「信州の鎌倉」

鎌倉幕府執権北条泰時の弟重信が信濃守護に任命され、塩田に守護所が設置された。重信の子義政が建治3年（1277）ここに城を築き、居住したのが塩田北条氏の始まりと云われる。

前山寺は弘仁13年（822）空海によって開創された古刹で、塩田城の鬼門方角に位置していたので、祈祷寺として信仰を集めた。三重塔は優美な姿を今に伝えて重要文化財となっている。鎌倉幕府は周辺に寺を創建し、改修にも力を注いだ。青木村の大法寺、別所の安楽寺、常楽寺等が新しく建てられ、蘇ったので、塩田平は「信州の鎌倉」と呼ばれるようになった。



塩田城跡

2-2 塩田城の村上氏への移管、重臣の福沢氏が塩田城主に

坂城、葛尾城に本拠を置く村上氏は清和源氏の本流河内源氏の庶流で、代々鎌倉幕府に忠誠を誓ってきた。「建武の新政」の発端となった朝廷対鎌倉幕府の争いが始まった時、関東で朝廷側として挙兵した新田義貞軍に村上信貞は参加した。京の足利尊氏の挙兵で鎌倉幕府は滅び、その功で村上信貞は朝廷より塩田領を与えられた。村上信貞は一族で重臣の福沢氏を塩田城主に任命したのである。



塩田城の石垣

2-3 塩田城の果たした役割

武田信玄が甲斐を統一し、力を蓄えて信濃へ侵攻を開始した。先ず佐久を攻略し、更に小県へ侵入して村上義清軍と激突した。「上田原合戦」と「砥石崩れ」の2回の激戦で村上軍は武田軍を破って敗走させたが、塩田城は村上軍の最前線防衛基地として非常に大きな役割を果たした。

2-4 塩田城の攻防と村上氏の滅亡

一度甲斐へ戻った武田信玄は、軍備を整え再度信濃攻略を開始した。真田昌幸の謀略で砥

石城を落城させると、状況が一変して武田軍が優勢となり、村上義清は葛尾城を捨てて越後の上杉謙信を頼って逃れた。一度は上杉軍の力を借りて塩田城を奪回したが、武田の飯富軍に攻められて再度落城した。武田信玄より飯富氏が新城主に任命されたが、信玄亡き後武田家が滅亡し、独立大名となった真田昌幸が塩田城を領有した。

やがて真田昌幸が上田城を築城すると、塩田城は不用となり廃城となってしまった。

2-5 塩田城落城後の福沢氏の去就

武田軍に再度敗れた村上義清は再び越後へ逃れ、上杉謙信より領地を与えられ家臣となった。越後へ随行した村上氏家臣の名簿には福沢氏の名前は記載されていない。福沢氏はどこへ逃れたのだろうか。話はこの時より 380 年程前にさかのぼる。

「保元の乱」「平治の乱」に参戦して敗れた信濃村上一族の村上定国は、平家の追っ手を逃れ、伊予へ逃げた。伊予は、河内源氏二代源頼義（八幡太郎義家の父）が奥州制圧の功で伊予守に任命され、伊予に神社、寺を建立したという縁があったからである。そこで伊予村上氏が生まれ、能島、因島、来島の伊予 3 島で水軍を形成して強大な勢力を保持していた。

伊予村上氏は本家信濃村上氏とは親密な関係にあり、年中行事を本家へ報告し、お伺いを立てた記録が残っていると伝えられる。

福沢氏はこの縁を頼って伊予へ落ち延びる道を選び、村上水軍の頭領能島村上武吉に助けを求めた。村上武吉は快く本家の縁者を受け入れ、豊前中津藩奥平家への仕官を仲介した。家臣となって落ち着いた福沢氏は無事に幕末を迎えた。

2-6 中津藩大阪屋敷で生まれた福沢諭吉

福沢諭吉は中津藩大阪屋敷で生まれ、緒方洪庵の適塾で蘭語を学び、世界への目を開かれた。後に英語を独学で習得し、咸臨丸で軍艦奉行木村摂津守の従者として渡米した。帰国後、慶応義塾を開校して若者を教育し、著作を通じて明治の文明開化を主導して教育界、言論界に大きな功績を残したことはよく知られている。



福沢諭吉
(Wikipedia より)

2-7 福沢諭吉の信州旅行

福沢は晩年になり家族と門下生を連れて信州旅行を行っている。明治 29 年（1896）11 月 6 日～11 日のことで、主な目的は各地で依頼された講演を行うこと、善光寺参りをし家族に祖先のルーツ信州を見せることであった。

その時の日程表を見ると、まずは長野市に入り、長野師範学校で「教育の効用」と題して講演を行い、その後で善光寺に参詣している。その後は直江津、高田、小諸、野沢と廻って慶応義塾の教え子の招きに応じて講演旅行を行った。しかしこの旅行では上田市及び当時の西塩田村（現在は上田市）の塩田城址は訪れていない。

福沢が明治 6 年（1873）東京に建てた墓所の碑文墓誌銘の冒頭に「福沢氏の先祖は信州福沢の人なり」と明記されている。信州旅行の際もその発言をしており、何よりも家族に祖先の発祥地を見せたくて信州旅行を発案したと思われる。福沢諭吉は信州旅行の翌年に脳溢血を発症し、3 年後の明治 34 年（1901）2 月に逝去された。

参考文献：丸山 信 著「信州と福沢諭吉」（東京図書出版会 発行）

秋の文化交流会

伏見桃山 歴史ロマンの探訪

伏見観光といえば伏見稲荷？その伏見稲荷から南へ4 km ほどの場所にある伏見桃山地区こそ実は伏見の中心であり、戦国時代末期から明治にかけて日本の政治・文化・経済において非常に重要な役割を果たした町です。いくつか伏見のトリビアを紹介しましょう。

- 豊臣秀吉の居城は大阪城ではなく、むしろ伏見城。
- 江戸時代は伏見の幕府から始まる。
- 日本で最初の銀座は伏見に置かれる。
- 幕末の志士暗躍の地。
- 日本で最初の路面電車・日本で初の営業用電車は伏見から。
- 伏見は港町？

伏見に興味が出てきましたでしょうか？ 秋の文化交流会ではこの歴史ロマンがつまった町、伏見を探訪いたします。皆様ぜひご参加ください。

開催日 : 令和元年 10 月 19 日(土) 集合 10:00

集合場所 : 京阪伏見桃山駅 改札前

行程 : 午前 ボランティアガイドによる伏見城と武家屋敷跡の見学
昼食・懇親会 酒蔵を改装したレストラン「月の蔵人」
午後 大倉記念館での酒造り現場見学
十石舟乗船と閘門見学 / 酒蔵街の散策

会費 : 5,000 円 (昼食・各種チケット込み。当日集金します)

申込先 : 〒635-0013 大和高田市昭和町 8-11-226 武舎 一夫 宛

E-mail : pretrejean@nifty.com TEL : 0745-53-1237

FAX : 078-583-5775 (隅田幹事長宛)



伏見城



伏見の十石舟